

# 小型底びき網 1 種の選択漁具開発試験

(資源回復計画作成推進事業)

福井克也・村山達朗

## 1. 研究目的

本県沿岸で操業される小型底びき網漁業 1 種(かけまわし)でソウハチやアカガレイを漁獲する際、同時にズワイガニの小型個体が大量に混獲されている。本研究ではズワイガニ小型個体の混獲を減少させることを目的とし、既存漁具の一部を大目合化することのみで出荷対象漁獲物とズワイガニ小型個体を分離し、網外に排出する機構を持つ選択漁具の開発に取り組んだ。

## 2. 研究方法

平成 19 年に小型底びき網漁船を用船して実施した前回の試験操業に用いた漁具を改良して試験を実施した。改良点は、前回の試験操業において、フラッパー(返し)の取り付け位置および長さが不適であることが判明したため、フラッパーの取り付け位置を後方にずらすと共に、長さを延長することで、排出口からの漁獲物流出防止を図った。また、魚獲りの漁獲物と排出口から排出された漁獲物を比較するため、排出口にカバーネットを取り付けた。

## 3. 研究結果

前回の試験と同様、JF しまね仁万支所所属の小型底びき網漁船「玉千代丸」の協力により、平成 22 年 3 月 14 日に 3 回の操業を行った。操業位置は仁万港から北西 25~32 マイル沖、水深 170~185m の海域で実施した。

### ① ズワイガニの排出状況について

操業ごとのズワイガニ推定漁獲個体数は、1 回目が 3,479 個体、2 回目が 1,568 個体、3 回目が 139 個体であった。排出率はそれぞれ 48.4%、40.7%、41.8% であり、平均すると 46.2% であった。操業毎に漁獲されたズワイガニの個体数が減少した理由は、操業毎に操業水深が浅くなったことによるものと考えられた。

### ② 魚類の排出率

漁獲された主な魚種は、カレイ類(ソウハチ、アカガレイ、ヒレグロ)とハタハタであった。カレイ類 3 種について、操業毎の推定漁獲尾数と排出率を見ると、ソウハチが 49 尾(0%)、28 尾(0%)、83 尾(2.4%)、アカガレイが 0 尾(0%)、248 尾(0%)、139 尾(1.4%)、ヒレグロが 0 尾(0%)、1,980 尾(4.3%)、2,845 尾(8.1%) であり、排出率を尾数比で 10% 以下に抑えることに成功した。また、推定漁獲重量に占める排出された重量の割合を推定すると、重量比で 1.0~1.1% と非常に低い値に留めることができた。また、ハタハタの操業毎の推定漁獲尾数と排出率はそれぞれ、0 尾(0%)、788 尾(1.2%)、748 尾(1.1%) であった。また、推定漁獲重量に占める排出された重量の割合は 1.2% と、低い値に抑えることに成功した。これはフラッパーの取り付け位置と、長さの延長による効果であると考えられた。今回の調査により、漁具を大幅に改造することなく、一部を大目合化することのみで、ズワイガニの混獲量を通常漁具の 6 割程度まで削減できることが実証できた。今後は開発試験結果をもとに、選択漁具の導入を希望する漁業者に技術提供を行い、ズワイガニの混獲量低減技術の普及を図ることとする。